

# 平成31年度小平市立小平第五小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

学習に円滑に取り組むことができるための知識や、実生活において活用できるようになっていることが望ましい知識・技能が身に付いていることを確認し、今後の学習に役立てるための調査です。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

小学校においては第5学年まで習得し、活用できるようにしておくべきと考えられる内容を出題しています。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

#### 課題

全ての項目で全国平均と東京都の平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」の項目では、正解率は81.1%であり、相手や目的に応じて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができている。「読むこと」は正解率が85.2%と高い。「書く」項目においては、正解率が56.1%と、苦手さがある。

「書くこと」の項目に課題がみられる。内容としては、文と文の関係などに注意して、接続語を正しく書くことに課題がある。また、目的に応じて複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらと関係付けて理解したり、表現したりすることに課題を示している。

### 学校で取り組む具体的な改善策

「書く」ことに慣れるように、短い文を書くこと（はがき新聞など）を継続的に取り組んでいく。週1回の言葉の時間を活用する。また、自分の考えをもてるよう、「自分の立ち位置」を選ばせながら授業を展開していけるようにする。さらに、他教科と関連付けて、非連続型テキストの読みの指導の充実を図っていく。資料からわかったことや考えたことを交流し合う時間をとることで、資料の内容を的確に読み取り、さらに、自分の考えをまとめる力を付けられるよう指導の充実を図る。

### 【算数】

#### 状況の分析

#### 課題

全ての項目が全国平均を上回る結果になった。特に量と測定の正答率は全国平均より11ポイント高かった。しかし、数量や図形についての技能及び知識・理解に関しては、東京都の平均よりも低かった。また、記述式の問題に関して、全国より12ポイント上回ったが、選択式、短答式の問題よりも正答率は低い。

分析により、記述式の問題に関して無回答率が他の問題形式に比べ、高いことが分かった。今後、立式の根拠や求め方の説明を文章で説明する力を一層高める指導が必要となる。また、数量や図形の意味や性質について、再度指導をする必要がある。

普段の算数の指導において、立式の根拠や求め方の説明を文章で書く時間を必ず実施する。また、ペアや集団検討の中で、一人一人が発表する時間をとる。説明することに慣れ、求め方の違いや共通点に気付けるよう指導を行っていく。数量や図形の指導については、数量感覚をもたせるために、数直線を使用して立式できるように指導をしていく。朝学習や補習の時間を利用し、個々の課題を明確にし、補充を図る。

## 【質問紙】

## 状況の分析

## 課題

全体的に、どの質問に対しても「している」「当てはまる」と回答する児童の割合が全国平均より低い。

生活面では、就寝・起床時刻が安定していない。自分自身に関する質問では、将来の夢や目標をもっている児童が50%。失敗を恐れなくて挑戦している児童は19%と、計画性、やる気、自己肯定感が低いことが分かる。

塾に通っている児童がいるため、就寝・起床時刻が安定していない。しかし、スマホやタブレットでの、SNS、ゲームによる夜更かしも実際に起きている。

将来に関することでは、自分自身を見つめる時間が少ないことが課題である。また、体験的な学びが少ないために、活動の喜びを見出せず、やる気の欠如につながっていると考えられる。

## 学校等で取り組む具体的な改善策

生活面に関しては、保護者会や個人面談による呼びかけを行う。小学校段階における夜更かしや睡眠時間の乱れにより、身体におよぼす影響、問題などを保護者が再認識できるように、具体的に示す機会を設ける。2学期の保護者会で、注意喚起を行う。

将来に関することでは、総合的な学習の時間や学級活動(3)、特別の教科 道徳を中心に、キャリア教育を行っていく。実際に働く人の話を聞く時間を設定し、より自分事として考えられるようなきっかけを用意していく。2学期の中旬から指導できるよう、計画をしていく。やる気や肯定感を高めるためには、行事や学級活動(1)を利用し、社会的な実践力を育てる。活動後に自己の生き方についての考えも深められるようにしていく。